

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第75号 R4. 8. 24

義務教育学校 京都大原学院 視察研修

東能勢小中学校は、この4月から小中一貫教育校として開校し、同時に学校運営協議会制度を導入しました。学校運営協議会をどのように運営していくかについて委員の皆さんで議論をする中、「先進校を視察訪問し参考にしたい。」というお声があり、視察研修を実施することとなりました。

京都大原学院 京都市立大原小中学校は、統廃合問題をきっかけに、どうしたら学校を残せるか、どんな学校を創ればよいか、どんな子どもに育ててほしいか、そのための特色ある取り組みは…と地域・保護者・教職員・子どもたちがみんなで頭を寄せ合ってつくられた学校です。平成19年に学校運営協議会を発足し、小中一貫教育についての検討を進め、平成21年4月に開校しました。保育施設や子育て支援センター等も併設されています。

7月15日、東能勢小中学校の学校運営協議会委員とPTA役員・理事の18名で、京都大原学院を視察訪問しました。学校の取り組みや自治会との連携等について、ご説明いただきました。また、学校施設も見学させていただきました。

参加者からのたくさんの質問に丁寧にご回答いただき、とても有意義な研修会となりました。お忙しい中、ご対応くださいました、瀧本校長先生、江崎教頭先生、中島教頭先生はじめ教職員の皆様、田家自治会長様、小松先生、ありがとうございました。



たくさんの資料をいただきました。

【参加者の感想】

- ◆大原学院の方々がおっしゃっていた、大人の方が環境の変化について行けてないのはいいか。小学校だから、中学校だからと無意識のうちに分けてしまっていないか。慎重になり過ぎて躊躇してしまい、前になかなか進めていないのではないか。本当に今の私達の課題だと思います。
- ◆過去にとらわれているとなにも変えることができません。地域を含む大きな変化のときに時代にあった、子供にあった、学校にあったやり方を見出すことを最優先に取り組める組織づくりをしていけたらいいと思います。

京都大原学院に関わられた皆様が熱い思いをもって学校をつくられたように、思いの込められた学校をこの豊能町につくっていきたいと思います。



15年間の「学び」と「育ち」をつなぐ一貫した教育の実現をめざして① ～吉川保育所 「楽しかったー。おにいちゃんたち、また来てくれるかなあ。」～

本町では、めざす子ども像を“豊能町に誇りをもち、自信をもって社会を生き抜く子ども”とし、15年間をつなぐ「保幼小中一貫教育」を推進しています。

各学校園所の取り組みを知っていただきたいという願いで、第75号(本号)から、それぞれの取り組みを紹介します。

毎年秋に、吉川中学3年生が保育体験で保育所に遊びに来てくれます。中学生は授業の中で、子どもとのかかわり方などを事前学習し、当日を迎えます。

昨年は、前半は1・2・3歳児、後半は4・5歳児と交流しました。1・2歳児はわらべ歌あそびやふれあいあそび、3歳児は子どもたちが読んでほしいと事前に選んでおいた絵本の読み聞かせ、4・5歳児は好きな遊びやじゃんけん列車・しっぽ取り・鬼ごっこなどを一緒に楽しみました。



中学生は子どもの目の高さにしゃがんで話したり、わかりやすい言葉で質問したり、子どもたちのことを理解しようと工夫してくれました。

保育所の子どもたちは、たくさん遊んでもらって大満足。お別れの時には「バイバーイ、また来てなー！」と見えなくなるまで見送っていました。

「僕も中学校になったら保育所に遊びに来れる？」と10年後を楽しみにする言葉も聞かれます。保育所で遊んでもらった子が中学生になって遊びに来てくれる。優しくしてもらった経験が、自分より小さい子に優しく接する姿に引き継がれている。このような交流をずっと続けていけたらと思います。

他にも吉川中学校の校庭のどんぐり拾いに行かせていただいたり、吹奏楽部が12月に『どれみコンサート』を開催(コロナ禍ではビデオレターをいただきました)してくださったり、楽しく交流させていただいています。

豊能町立義務教育学校 (令和8年度開校予定)

校名大募集中！！

募集締め切り 9月12日(月)



【詳しくはこちらから⇒<https://www.town.toyono.osaka.jp/page/page005297.html>】

